

第8章 技術・家庭

第1 教科目標，評価の観点及びその趣旨等

1 教科目標

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して，生活と技術とのかかわりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

2 評価の観点及びその趣旨

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
生活や技術について関心 をもち，生活を充実向上 するために進んで実践し ようとする。	生活について見直し，課 題を見付け，その解決を 目指して自分なりに工夫 し創造する。	生活に必要な基礎的な技 術を身に付けている。	生活や技術に関する基 礎的な事項や生活と技 術とのかかわりについ て理解し，知識を身に 付けている。

3 内容のまとめりごとの評価規準の設定

技術・家庭科においては，学習指導要領に示す技術分野の内容の「A技術とものづくり」及び「B情報とコンピュータ」並びに家庭分野の内容の「A生活の自立と衣食住」及び「B家族と家庭生活」のそれぞれの(1)～(6)の内容のまとめりごとに評価規準を作成した。

第2 内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

技術分野

1 技術分野の目標

実践的・体験的な学習活動を通して，ものづくりやエネルギー利用及びコンピュータ活用等に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに，技術が果たす役割について理解を深め，それらを適切に活用する能力と態度を育てる。

2 技術分野の評価の観点の趣旨

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
ものづくりやエネルギー 利用及びコンピュータ活 用等に関する技術につい て関心をもち，生活をよ りよくするために知識と 技術を進んで活用しよう とする。	生活と技術とのかかわり について見直し，課題を 見付けるとともに，その 解決のために技術を適切 に活用して工夫し創造す る。	ものづくりやエネルギー 利用及びコンピュータ活 用等に必要な基礎的な技 術を身に付け，その技術 を安全で適切に活用でき る。	生活や産業の中での技 術の役割について理解 し，ものづくりやエネ ルギー利用及びコンピ ュータ活用等に必要 な基礎的な知識を身に 付けている。

3 学習指導要領の内容，内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1)「A 技術とものづくり(1)」

【学習指導要領の内容】

(1) 生活や産業の中で技術の果たしている役割について，次の事項を指導する。

ア 技術が生活の向上や産業の発展に果たしている役割について考えること。

イ 技術と環境・エネルギー・資源との関係について知ること。

【「(1) 生活や産業の中で技術の果たしている役割」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
生活や産業の中で用いら れている技術に関心をも ち，技術が果たしている 役割や，環境・エネルギ	技術を適切に使う方法を 工夫している。		技術と環境・エネルギ ー・資源との関係に関 する知識を身に付け， 技術のあり方について

ー・資源について考えようとしている。		理解している。
--------------------	--	---------

【「(1) 生活や産業の中で技術の果たしている役割」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身近な機械や電気機器に利用されている技術の意味や役割について調べようとしている。 技術の発達と生活様式や職場環境の変化の関係について調べようとしている。 環境保全や人間生活の向上のために、技術をどのように活用すべきか考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全，省エネルギー，省資源の方法を工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> 加工技術や情報技術等の発達が生活様式や職場環境に与えた影響に関する知識を身に付けている。 環境保全，省エネルギー，省資源に貢献している技術の発達や活用に関する知識を身に付けている。 これからの技術のあり方について理解している。

(2) 「A 技術とものづくり(2)」

【学習指導要領の内容】

(2) 製作品の設計について，次の事項を指導する。

ア 使用目的や使用条件に即した製作品の機能と構造について考えること。

イ 製作品に用いる材料の特徴と利用方法を知ること。

ウ 製作品の構想の表示方法を知り，製作に必要な図をかくことができること。

【「(2) 製作品の設計」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
身の回りの生活を向上させるための製作品を構想することに関心をもち，製作するために必要なことを図で表示しようとしている。	使用目的や使用条件に即した製作品を構想し，その設計について工夫し創造している。	目的とする製作品を設計することができる。	製作品の構想の表示方法に関する知識を身に付け，設計時に必要な材料の性質や機能及び構造について理解している。

【「(2) 製作品の設計」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの製品の機能や構造の違いを調べようとしている。 身の回りの製品に使われている材料の特徴を調べようとしている。 製作したいものを意欲的に考え，目的とするものを表示しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作品の使用目的にあわせて機能を工夫している 製作品の使用目的にあわせて構造を工夫している。 材料の特徴を活かして製作品に用いるために工夫している。 自らが構想したものの形を図で表すために工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作品の使用目的に適した材料を選択することができる。 製作品の構想を等角図またはキャビネット図によって表示することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製作品の使用目的と機能について理解している。 製作品の構造をじょうぶにする方法と接合方法に関する知識を身に付けている。 製作品に用いる材料の特徴と利用方法に関する知識を身に付けている。 製作品の設計に必要な手順，及び構想の表示に関する知識を

			身に付けている。
--	--	--	----------

(3) 「A 技術とものづくり(3)」

【学習指導要領の内容】

(3) 製作に使用する工具や機器の使用方法及びそれらによる加工技術について、次の事項を指導する。

ア 材料に適した加工法を知ること。

イ 工具や機器を適切に使い、製作品の部品加工、組立て及び仕上げができること。

【「(3) 製作に使用する工具や機器の使用方法及びそれらによる加工技術」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
加工技術に関心をもち、目的や条件に応じて、工具や機器を適切に活用しようとしている。	材料の特徴と加工の目的に応じて、工具の仕組みを生かした使い方を工夫している。	製作の目的と製作品に用いる材料に適した加工を行うことができる。	加工技術に関する知識を身に付け、工具の仕組みについて理解している。

【「(3) 製作に使用する工具や機器の使用方法及びそれらによる加工技術」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・製作に使用する工具や機器の種類や用途、及び使用方法を調べようとしている。 ・工具の仕組みに関心をもち、活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工の目的や条件に応じて、より適切な工具を選択し、その使い方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部品加工、組立て、及び仕上げをすることができる。 ・工具や機器を安全に使用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加工の目的や材料に適した加工法に関する知識を身に付けている。 ・工具の仕組みと効果的な使用方法との関係について理解している。 ・製作品に適した加工工程と加工技術に関する知識を身に付けている。

(4) 「A 技術とものづくり(4)」

【学習指導要領の内容】

(4) 製作に使用する機器の仕組み及び保守について、次の事項を指導する。

ア 機器の基本的な仕組みを知ること。

イ 機器の保守と事故防止ができること。

【「(4) 製作に使用する機器の仕組み及び保守」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
製作に使用する機器の仕組みに関心をもち、保守と事故防止に努めようとしている。		機器の保守と事故防止ができる。	基本的な機器の構造と各部の動きに関する知識を身に付け、保守と事故防止の必要性について理解している。

【「(4) 製作に使用する機器の仕組み及び保守」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・製作に使用する機器の仕組みを調べようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・機器の保守点検を行うことができる。 ・ねじの締め付けの確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作に使用する機器の電流の流れを制御する方法に関する知識

<ul style="list-style-type: none"> ・機器の保守や事故防止に努めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 認 ・潤滑油の給油 ・回路計による点検 ・コードやヒューズなどの簡単な部品の交換 ・機器を使用する際の事故防止ができる。 ・作業をする回りの整理整頓 ・作業時の服装 等 	<ul style="list-style-type: none"> 識を身に付けている。 ・製作に使用する機器の動力伝達の方法に関する知識を身に付けている。 ・製作に使用する機器の保守と事故防止に関する知識を身に付けている。 ・製作に使用する機器に用いられている事故防止の仕組みについて理解している。
--	--	---

(5) 「A 技術とものづくり(5)」

【学習指導要領の内容】

(5) エネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。

ア エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知り、それらを利用した製作品の設計ができること。

イ 製作品の組立て・調整や、電気回路の配線・点検ができること。

【「(5) エネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作」の評価規準】

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
身の回りのエネルギーに関心を持ち、エネルギーの変換方法やその利用について考えようとしている。	目的の仕事や動作をさせるために製作品の設計や製作活動などを工夫し創造している。	目的の動作をさせる機構や電気回路を選択して、製作品の設計・製作ができる。	製作品のエネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みについて理解している。

【「(5) エネルギーの変換を利用した製作品の設計・製作」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・熱、光、風などのエネルギーの変換方法や特徴を調べようとしている。 ・エネルギーの変換を利用した製作品を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の仕事や動作をさせるために力の伝達の仕組みを工夫している。 ・製作品が目的の動きをしない場合にその原因を追究し、製作品の検討及び修正をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的とする動作や働きを想定して、製作品の構想をまとめることができる。 ・製作に必要な材料を選択・準備し、製作品の組立てや配線ができる。 ・回路計を用いて電気回路の点検ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的なエネルギーの変換方法の種類や利用方法について理解している。 ・カムやリンクなどを利用した力の伝達の仕組みについて理解している。 ・電気エネルギーを変換する電気回路の仕組みについて理解している。 ・製作品の作業手順や組立ての方法などについて理解している。

(6) 「A 技術とものづくり(6)」

【学習指導要領の内容】

(6) 作物の栽培について、次の事項を指導する。

ア 作物の種類とその生育過程及び栽培に適する環境条件を知ること。

イ 栽培する作物に即した計画を立て、作物の栽培ができること。

【「(6) 作物の栽培」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
草花や野菜等に関心をもち、作物を進んで栽培しようとしている。	作物を栽培目的に応じて、計画的、合理的に育てようと工夫している。	作物の栽培技術を身に付け、草花や野菜等が栽培できる。	作物の栽培に関する知識を身に付け、生活と栽培とのかかわりについて理解している。

【「(6) 作物の栽培」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・草花や野菜等に関心をもち、作物の生育過程や環境条件について調べようとしている。 ・用土の準備や除草、かん水、保護などの作業や用具の管理を行おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培する作物に応じて栽培計画を工夫している。 ・作物の生育状態や環境に適した作業や管理の仕方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培の目的や環境条件に適した草花や野菜等が選択できる。 ・栽培する作物に即した栽培計画を立てることができる。 ・栽培に必要な用具を準備し、栽培の作業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の生育過程と環境条件との関係について理解している。 ・作物の栽培に必要な作業や管理の仕方に関する知識を身に付けている。 ・作物の主な病気や害虫とその安全な防除に関する知識を身に付けている。

(7) 「B 情報とコンピュータ(1)」

【学習指導要領の内容】

(1) 生活や産業の中で情報手段の果たしている役割について、次の事項を指導する。

ア 情報手段の特徴や生活とコンピュータとのかかわりについて知ること。

イ 情報化が社会や生活に及ぼす影響を知り、情報モラルの必要性について考えること。

【「(1) 生活や産業の中で情報手段の果たしている役割」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワーク及び情報手段の果たしている役割に関心をもち、情報モラルについて考えようとしている。	情報を適切に使う方法を工夫している。		情報手段の発達と生活とのかかわり、及び情報化の進展が及ぼす影響に関する知識を身に付け、情報モラルの必要性について理解している。

【「(1) 生活や産業の中で情報手段の果たしている役割」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関心をもち、情報手段の発達や情報化の進展が、生活や産業をどのように変化させてきたのかについて考えようとしている。 ・情報化が社会や生活に及ぼす影響と情報モラルの必要性について考 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ等の情報機器や情報通信ネットワークを効果的に活用し、生活の中に取り入れる方法を工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・情報手段が発達してきた経過や特徴、及び情報化の進展に関する知識を身に付けている。 ・コンピュータの利点を生かした利用方法に関する知識を身に付けている。 ・情報社会の特質や情

えようとしている。			報化の進展がもたらす影響について理解している。
-----------	--	--	-------------------------

(8) 「B 情報とコンピュータ(2)」

【学習指導要領の内容】

(2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作について、次の事項を指導する。

ア コンピュータの基本的な構成と機能を知り、操作ができること。

イ ソフトウェアの機能を知ること。

【「(2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
コンピュータの基本的な構成と機能、及びソフトウェアの機能に関心を持ち、コンピュータの操作をしようとしている。		コンピュータの基本的な操作ができる。	コンピュータの基本的な構成と機能、及びソフトウェアの機能に関する知識を身に付け、ハードウェアとソフトウェアとの関係について理解している。

【「(2) コンピュータの基本的な構成と機能及び操作」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータに関心を持ち、その構成と機能について調べようとしている。 ・コンピュータの操作方法を調べ操作しようとしている。 ・基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの機能の違いについて考えようとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの起動と終了の操作ができる。 ・周辺機器の操作ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と機能に関する知識を身に付けている。 ・コンピュータの操作に関する知識を身に付けている。 ・基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの機能に関する知識を身に付けている。 ・ハードウェアとソフトウェアの関係について理解している。

(9) 「B 情報とコンピュータ(3)」

【学習指導要領の内容】

(3) コンピュータの利用について、次の事項を指導する。

ア コンピュータの利用形態を知ること。

イ ソフトウェアを用いて、基本的な情報の処理ができること。

【「(3) コンピュータの利用」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
応用ソフトウェアの特徴と利用方法に関心を持ち、応用ソフトウェアを利用して自らの考えを表現しようとしている。	課題に応じて、応用ソフトウェアを用いた情報の処理の仕方を工夫している。	応用ソフトウェアの操作技術を身に付け、基本的な情報の処理ができる。	パーソナルコンピュータの利用形態や応用ソフトウェアの特徴と利用方法に関する知識を身に付け、データの種類や特徴と応用ソフトウェアの関係について

		理解している。
--	--	---------

【「(3) コンピュータの利用」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> パーソナルコンピュータの利用形態に関心をもち、アプリケーションソフトウェアの特徴と利用方法について調べようとしている。 アプリケーションソフトウェアを利用して簡単な情報の処理をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や条件に応じて、より適切なアプリケーションソフトウェアの選択を工夫している。 アプリケーションソフトウェアを利用して情報の処理の仕方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションソフトウェアの操作ができる。 選択したアプリケーションソフトウェアを利用し、収集した情報を処理することができる。 作品の印刷やデータの保存ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> パーソナルコンピュータの利用形態に関する知識を身に付けている。 アプリケーションソフトウェアの操作に関する知識を身に付けている。 アプリケーションソフトウェアの特徴と利用方法に関する知識を身に付けている。 データの種類や特徴とアプリケーションソフトウェアの関係について理解している。

(10) 「B 情報とコンピュータ(4)」

【学習指導要領の内容】

(4) 情報通信ネットワークについて、次の事項を指導する。

ア 情報の伝達方法の特徴と利用方法を知ること。

イ 情報を収集、判断、処理し、発信ができること。

【「(4) 情報通信ネットワーク」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<p>情報通信ネットワークに関心をもち、情報を収集したり発信したりしようとしている。</p>	<p>目的に応じて、情報通信ネットワークの利用方法を工夫している。</p>	<p>情報通信ネットワークを利用して情報を収集、判断、処理し、発信することができる。</p>	<p>情報の伝達方法の特徴と利用方法に関する知識を身に付け、コンピュータを利用したネットワークのあり方について理解している。</p>

【「(4) 情報通信ネットワーク」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークに関心をもち、情報伝達方法の特徴と利用方法について調べようとしている。 インターネットなどを利用して情報の収集をしようとしている。 電子メールを利用して情報を発信しようとしている。 情報を発信をする場合に著作権とプライバシーを侵害しないように 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた適切な利用手段の選択を工夫している。 電子メールを利用し、目的に応じた情報の発信ができるように工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットなどを利用して情報を収集することができる。 収集した情報を判断、処理し、電子メールを利用して情報を発信することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークを利用した情報の伝達方法の特徴と利用方法に関する知識を身に付けている。 インターネットなどの利用時に必要なアプリケーションソフトウェアの操作に関する知識を身に付けている。 ネットワークの利用者個人を識別するためのユーザIDやパスワードの必要性に

している。			ついて理解している。 ・情報の発信におけるプライバシー保護と著作権の重要性について理解している。
-------	--	--	---

(11) 「B 情報とコンピュータ(5)」

【学習指導要領の内容】

(5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用について、次の事項を指導する。

ア マルチメディアの特徴と利用方法を知ること。

イ ソフトウェアを選択して、表現や発信ができること。

【「(5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
マルチメディアに関心をもち、生活に活用できる範囲や使用方法を考えようとしている。	ソフトウェアを用いて解決することができる課題を設定し、その課題解決のためにソフトウェアの組み合わせや適切に活用する方法について工夫し創造している。	マルチメディア用ソフトウェアを活用して、表現や発信ができる。	マルチメディアの特徴と利用方法に関する知識を身に付け、ソフトウェアを活用した表現や発信について理解している。

【「(5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディアの特徴や利用方法について調べようとしている。 ・マルチメディアの特徴を利用して表現や発信をしようとしている。 ・作品の制作に使用する素材やソフトウェアの著作権等に注意しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために、適切なメディアの選択を工夫している。 ・多様なメディアの素材を複合して、効果的な表現方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディア用ソフトウェアの基本操作ができる。 ・多様なメディアの素材を収集、判断、処理することができる。 ・マルチメディア用ソフトウェアを利用して、表現や発信をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチメディアの特徴や利用方法に関する知識を身に付けている。 ・ソフトウェアを活用した表現や発信の方法について理解している。 ・作品の制作に使用する素材やソフトウェアの著作権等について理解している。

(12) 「B 情報とコンピュータ(6)」

【学習指導要領の内容】

(6) プログラムと計測・制御について、次の事項を指導する。

ア プログラムの機能を知り、簡単なプログラムの作成ができること。

イ コンピュータを用いて、簡単な計測・制御ができること。

【「(6) プログラムと計測・制御」の評価規準】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
コンピュータを用いたプログラムに関心をもち、身の回りで見られる計測・制御について調べようとしている。	計測・制御にかかわる課題を設定し、その課題解決のためにプログラムの手順を工夫し創造している。	コンピュータを用いた簡単なプログラムの作成、及び計測・制御ができる。	簡単なプログラムの作成に関する知識を身に付け、コンピュータを用いた計測・制御の仕組みについて理解している。

【「(6)プログラムと計測・制御」の評価規準の具体例】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術につい ての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを働かせるプログラムに関心をもち、その役割とその機能について考えようとしている。 ・簡単なプログラムの作成に取り組んでみようとしている。 ・身の回りにあるコンピュータを用いた計測・制御の機器について調べようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンプルプログラムを用いて、課題を解決するために、情報処理の手順を工夫している。 ・コンピュータを用いて目的に応じた計測・制御の方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプログラムの作成ができる。 ・サンプルプログラムをもとに、簡単なプログラムの編集・作成ができる。 ・コンピュータを用いて簡単な計測や動く模型の制御をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なプログラムの作成に関する知識を身に付けている。 ・簡単なプログラムの作成の手順について理解している。 ・簡単な計測・制御の構成要素に関する知識を身に付けている。 ・生活とコンピュータを用いた計測・制御システムとの関係について理解している。

家庭分野

1 家庭分野の目標

実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

2 家庭分野の評価の観点の趣旨

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
衣食住や家族の生活について関心を持ち、家庭生活をよりよくするために知識と技術を進んで活用しようとする。	衣食住や家族の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造する。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な知識を身に付けている。

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準及びその具体例

(1) 「A 生活の自立と衣食住(1)」

【学習指導要領の内容】

(1) 中学生の栄養と食事について、次の事項を指導する。

ア 生活の中で食事が果たす役割や、健康と食事とのかかわりについて知ること。

イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生の時期の栄養の特徴について考えること。

ウ 食品の栄養的特質を知り、中学生に必要な栄養を満たす1日分の献立を考えること。

【「(1) 中学生の栄養と食事」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
中学生の栄養と食事について関心を持ち、食生活をよりよくするために、学んだことを活用しようとしている。	中学生の栄養と食事について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	中学生に必要な栄養を満たす食事の取り方に関する基礎的な技術を身に付けている。	中学生の栄養と食事に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(1) 中学生の栄養と食事」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割や健康とのかかわりについて関心をもっている。 ・食品に含まれる栄養素について、関心をもって学習活動に取り組んでいる。 ・中学生の時期の栄養の特徴について関心を持ち、自分の食事とかわらせて考えようとしている。 ・食品の栄養的特質について関心を持ち、献立を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事点検などから課題を見付け、その解決を目指して食事の取り方などについて考え、工夫している。 ・中学生に必要な栄養量を満たす一日分の献立を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食事を点検することができる。 ・栄養素の種類と働きや食品の栄養的特質について、調べたりまとめたりすることができる。 ・食品群別摂取量の目安を用いて中学生の1日分の献立を考えすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割や健康と食事とのかかわりについて理解している。 ・五大栄養素の種類と働きについて理解している。 ・中学生の時期の栄養の特徴について理解している。 ・食品の栄養的特質を理解している ・食品を食品群に分類し1日に必要な食品の概量が分かる。

(2) 「A 生活の自立と衣食住(2)」

【学習指導要領の内容】

- (2) 食品の選択と日常食の調理の基礎について、次の事項を指導する。
- ア 食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択することができること。
 - イ 簡単な日常食の調理ができること。
 - ウ 食生活の安全と衛生に留意し、食品や調理器具等の適切な管理ができること。

【「(2) 食品の選択と日常食の調理の基礎」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
食品の選択と簡単な日常食の調理について、関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくしようとしている。	食品の選択と簡単な日常食の調理について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	食品を適切に選択し、安全と衛生に留意して簡単な日常食の調理ができる。	食品の選択と簡単な日常食の調理に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(2) 食品の選択と日常食の調理の基礎」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品に関心を持ち、用途に応じて適切に選択しようとしている。 ・日常食の調理に関心を持ち、調理技術を習得しようとしている。 ・食生活の安全と衛生に関心を持ち、調理実習で実践しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の選択と簡単な日常食の調理を工夫している。 <ul style="list-style-type: none"> ・材料の扱い ・切り方 ・調味 ・盛りつけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品の品質について調べ、用途に応じて適切に選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・目的、栄養、価格 ・調理の能率 ・環境への影響など ・安全と衛生や作業の能率に留意して調理ができる。 ・洗う、切る、加熱する、調味するなどの基本的な調理操作ができる。 ・食品や調理器具を適切に取り扱うことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・食品の保存 ・ふきん、まな板、包丁などの調理用具の扱い ・調理用熱源 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な食品の品質を見分ける観点について理解している。 ・加工食品の表示の意味を読みとることができる。 ・食品の調理上の性質について理解している。 ・加熱調理と調味の要点について理解している。 ・食品や調理器具の安全と衛生に留意した取扱い方を理解している。

(3) 「A 生活の自立と衣食住(3)」

【学習指導要領の内容】

- (3) 衣服の選択と手入れについて、次の事項を指導する。
- ア 衣服と社会生活とのかかわりを考え、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。
 - イ 日常着の計画的な活用を考え、適切な選択ができること。
 - ウ 衣服材料に応じた日常着の適切な手入れと補修ができること。

【「(3) 衣服の選択と手入れ」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
衣服の着用、選択、手入れについて、関心をもって学習活動に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。	衣服の着用、選択、手入れについて課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的な技術を身に付けている。	衣服の着用、選択、手入れに関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(3) 衣服の選択と手入れ」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・衣服と社会生活とのかわりに関心をもち、時・場所・場合に応じた衣服を着用しようとしている。 ・日常着の計画的な活用に関心をもち、適切に選択しようとしている ・衣服材料に応じた日常着の手入れや補修について、関心をもち学習活動に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じた着用や個性を生かす着用について考え、工夫している。 ・日常着の計画的な活用について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既制服の表示や縫製などについて調べ、適切に選択できる。 ・衣服材料や汚れの度合いに応じた手入れができる。 ・補修の目的と布地に適した方法で衣服を補修することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の社会生活上の機能について理解している。 ・既制服の表示と選択に当たっての留意事項について理解している。 ・綿、毛、ポリエステル等の手入れにかかわる性質について理解している。 ・洗濯の方法と特徴について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・洗剤の働き ・衣服材料に応じた洗剤の種類 ・洗剤の使用量など ・補修の目的と布地に適した方法が分かる。

(4) 「A 生活の自立と衣食住(4)」

【学習指導要領の内容】

(4) 室内環境の整備と住まい方について、次の事項を指導する。

ア 家族が住まう空間としての住居の機能を知ること。

イ 安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができること。

【「(4) 室内環境の整備と住まい方」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
安全で快適な室内環境の整備と住まい方について、関心をもち学習活動に取り組み、住生活をよりよくしようとしている。	安全で快適な室内環境の整備と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	安全で快適な室内環境の整備と住まい方の工夫に関する基礎的な技術を身に付けている。	安全で快適な室内環境の整備と住まい方の工夫に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(4) 室内環境の整備と住まい方」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活の場としての住居の機能について関心をもちている。 ・衛生的な室内の整備に関心をもち、実践しようとしている。 ・室内の安全に関心をもち、安全な住まい方を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・実験・実習などを通して、安全で快適な室内環境の整備について実践できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・室内の空気調節 ・通風、換気 ・騒音防止 ・室内事故の防止 ・汚れに応じた清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の基本的な機能について理解している。 ・室内環境を整えることの必要性に気付き、安全で快適な室内環境の整備に関する具体的な方法を理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・室内の空気調節 ・通風、換気 ・騒音防止 ・室内事故の防止 ・汚れに応じた清掃

			・用具や用剤の安全で適切な取扱いについて理解している。
--	--	--	-----------------------------

(5) 「A 生活の自立と衣食住(5)」

【学習指導要領の内容】

(5) 食生活の課題と調理の応用について、次の事項を指導する。

ア 自分の食生活に関心を持ち、日常食や地域の食材を生かした調理の工夫ができること。

イ 会食について課題を持ち、計画を立てて実践できること。

【「(5) 食生活の課題と調理の応用」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
自分の食生活について関心を持ち、主体的に調理と会食に取り組み、よりよい食生活を実践しようとしている。	調理と会食について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理と会食について計画を立てて実践できる。	日常食や地域の食材を生かした調理と会食に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(5) 食生活の課題と調理の応用」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活を振り返り、課題を見付けようとしている。 ・日常食や地域の食材を生かした調理の計画や実習に関心をもって取り組み、学んだ知識と技術を活用しようとしている。 ・会食の計画や実践に関心をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食や地域の食材を生かした調理について課題を持ち、自分なりの工夫をしたり、新たな方法を考えたりしている。 ・会食の目的に応じ、課題をもって計画や実践を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食や地域の食材を生かした調理ができる。 ・会食の目的に応じ、計画を立てて実践することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(2)で取り上げなかった食品を用いた日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・地域の食材について理解している。 ・会食のマナーについて理解している。

(6) 「A 生活の自立と衣食住(6)」

【学習指導要領の内容】

(6) 簡単な衣服の製作について、次の事項を指導する。

ア 日常の衣服に関心を持ち、身体を覆う衣服の基本的な構成を知ること。

イ 簡単な衣服の製作について課題を持ち、計画を立てて製作できること。

【「(6) 簡単な衣服の製作」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
日常の衣服について関心を持ち、主体的に簡単な衣服の製作に取り組み、よりよい衣生活を実践しようとしている。	簡単な衣服の製作について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	簡単な衣服の製作について計画を立てて製作できる。	衣服の基本的な構成について理解するとともに、簡単な衣服の製作に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(6) 簡単な衣服の製作」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解

<ul style="list-style-type: none"> ・身体を覆う衣服の構成に関心をもっている。 ・簡単な衣服の製作について関心もち、課題を見付けようとしている。 ・簡単な衣服の製作に関心をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作品の考案，製作計画，製作作業について課題をもち，自分なりの工夫をしたり，新たな方法を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作計画を立て，安全で能率よく，衣服を製作することができる。 ・採寸 ・布や材料の選択 ・型紙配置としりし付け ・裁断 ・ミシン縫い ・縫い代の始末 ・仕上げ ・用具の安全な取扱いなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・立体構成による衣服の基本的な構成について理解している。 ・簡単な衣服の製作に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・布の選択と用尺 ・型紙の活用 ・布地の扱い ・縫い代分量 ・布地に適した糸と針 ・布地や部位に応じた縫い方と縫い代の始末 ・用具の安全な取扱い
---	--	---	--

(7) 「B 家族と家庭生活(1)」

【学習指導要領の内容】

(1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせる。

【「(1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて，関心をもって学習活動に取り組んでいる。			自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて気付いている。

【「(1) 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
・自分の成長や生活と家族や家庭生活とのかかわりについて考えようとしている。			・自分の成長や生活は家族やそれにかわる人々に支えられてきたことに気付いている。

(8) 「B 家族と家庭生活(2)」

【学習指導要領の内容】

(2) 幼児の発達と家族について，次の事項を指導する。

ア 幼児の観察や遊び道具の製作を通して，幼児の遊びの意義について考えること。

イ 幼児の心身の発達の特徴を知り，子どもが育つ環境としての家族の役割について考えること。

【「(2) 幼児の発達と家族」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
幼児に関心をもち，幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて考えようとしている。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて，観察したり調査したりすることができる。	幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(2) 幼児の発達と家族」の評価規準の具体例】

--	--	--	--

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児に関心をもち、幼児の観察や遊び道具の製作に取り組んでいる。 ・ 幼児の遊びや遊び道具，遊びと発達とのかかわりについて考えようとしている。 ・ 幼児の発達を支える家族の役割について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び道具，遊び方について考え，工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の遊びの観察・調査や遊び道具の製作ができる。 ・ 観察・調査したことをまとめたり，発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児にとっての遊びの意義について理解している。 ・ 幼児の心身の発達の概要を理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の発育 ・ 運動の機能 ・ 言語，情緒，社会性 ・ 幼児の発達を支える家族の役割について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの保護 ・ 情緒の安定 ・ 社会化 ・ 基本的な生活習慣の形成の重要性について理解している。

(9) 「B 家族と家庭生活(3)」

【学習指導要領の内容】

(3) 家庭と家族関係について，次の事項を指導する。

ア 家庭や家族の基本的な機能を知り，家族関係をよりよくする方法を考えること。

イ 家庭生活は地域の人々に支えられていることを知ること。

【「(3) 家庭と家族関係」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
家庭と家族関係について，関心をもって学習活動に取り組み，家庭生活をよりよくしようとしている。	家庭と家族関係について課題を見付け，その解決を目指して工夫している。	家庭と家族関係に関する基礎的な技術を身に付けている。	家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域の人々とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(3) 家庭と家族関係」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活や事例をもとに家族の立場や役割を理解しようとしている。 ・ 家族の一員として自分のできることを実践しようとしている。 ・ 家庭生活と地域の人々とのかかわりに関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の生活や事例の家族について課題を見付け，家族関係をよりよくする方法を考え，工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイングなどを通して，家族関係をよりよくする方法が実践できる。 ・ 家庭や家族の基本的な機能，家庭生活と地域の人々とのかかわりなどについて調べたり，発表したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や家族の基本的な機能について理解している。 ・ 家庭生活が地域の人々とのつながりの中で成り立っていることを理解している。

(10) 「B 家族と家庭生活(4)」

【学習指導要領の内容】

(4) 家庭生活と消費について，次の事項を指導する。

ア 販売方法の特徴や消費者保護について知り，生活に必要な物資・サービスの適切な選択，購入及び活用ができること。

イ 自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫すること。
【「(4) 家庭生活と消費」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
家庭生活と消費について、関心をもって学習活動に取り組み、消費生活をよりよくしようとしている。	家庭生活と消費について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。	家庭生活と消費に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(4) 家庭生活と消費」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 自分の家庭生活や消費の在り方について振り返り、身近な販売方法の特徴や利点と問題点に関心をもっている。 情報を収集・整理し、物資・サービスを適切に選択、購入、活用しようとしている。 自分の生活と環境とのかわりに関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活の問題点を見付け、収集・整理した情報を活用して消費生活をよりよくする方法について考え、工夫している。 物資の選択・購入・活用・廃棄について点検し、環境に配慮した消費生活を考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な物資・サービスの事例について情報を収集・整理し、適切な選択、購入及び活用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生にかかわりの深い販売方法の利点と問題点について理解している。 消費者の基本的な権利と消費者保護基本法の趣旨を理解している。 物資の選択・購入・活用・廃棄に関する基礎的な知識を身に付けている。

(11) 「B 家族と家庭生活(5)」

【学習指導要領の内容】

(5) 幼児の生活と幼児との触れ合いについて、次の事項を指導する。

ア 幼児の生活に関心をもち、課題をもって幼児の生活に役立つものをつくることができること。

イ 幼児の心身の発達を考え、幼児との触れ合いやかかわり方の工夫ができること。

【「(5) 幼児の生活と幼児との触れ合い」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
幼児の生活と幼児との触れ合いについて関心をもち、主体的に学習活動に取り組み、幼児と適切にかかわろうとしている。	幼児の生活と幼児との触れ合いについて課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の生活に役立つものの製作や幼児との触れ合いができる。	幼児について理解を深めるとともに、幼児の生活に役立つものの製作や幼児とのかわり方に関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(5) 幼児の生活と幼児との触れ合い」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造 する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 幼児の生活について関心をもち、課題を見付けようとしている。 幼児の生活に役立つものの製作に関心をもって取り組み、学んだ知識と技術を活用しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の生活に役立つものの製作について課題をもち、自分なりの工夫をしたり新たな方法を考えたりしている。 幼児の心身の発達に応じて、幼児との触れ合い 	<ul style="list-style-type: none"> 遊び道具、簡単な衣服、間食の調理など、幼児の生活に役立つものを計画を立ててつくることができる。 幼稚園や保育所等で 	<ul style="list-style-type: none"> 遊び道具の製作、簡単な衣服の製作、間食の調理など、幼児の生活に役立つものの製作に関する基礎的な知識を身に付けている。 幼児の心身の発達に

している。 ・幼児との触れ合いに関心をもって取り組み、幼児と適切にかかわろうとしている。	いやかかわり方について、自分なりの工夫をしたり新たな方法を考えたりしている。	幼児と適切にかかわることができる。	じた話しかけや接し方、遊びの工夫などについて理解している。
---	--	-------------------	-------------------------------

(12) 「B 家族と家庭生活(6)」

【学習指導要領の内容】

(6) 家庭生活と地域とのかかわりについて、次の事項を指導する。

ア 地域の人々の生活に関心をもち、高齢者など地域の人々とかかわることができること。

イ 環境や資源に配慮した生活の工夫について、課題をもって実践できること。

【「(6) 家庭生活と地域とのかかわり」の評価規準】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
地域の人々の生活と環境や資源に配慮した生活について関心をもち、主体的に学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。	地域の人々の生活と環境や資源に配慮した生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	地域の人々とかかわることができるとともに、環境や資源に配慮した生活の工夫について実践できる。	家庭生活と地域の人々とのかかわりについて理解を深めるとともに、生活と環境や資源とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。

【「(6) 家庭生活と地域とのかかわり」の評価規準の具体例】

生活や技術への関心 ・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動や地域の行事など、地域の生活に関心をもち、地域の人々とかかわろうとしている。 ・環境や資源に配慮した生活の工夫について関心をもち、課題を見付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流の方法を自分なりに考え工夫している。 ・環境や資源に配慮した生活について課題をもち、その解決を目指して自分なりの工夫をしたり新たな方法を考えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の一員として、高齢者など地域の人々とかかわることができる。 ・自分の生活を点検し環境や資源に配慮した生活の工夫について、計画を立てて実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活と地域社会のかかわりについて理解し、地域社会の一員であることに気付いている。 ・生活の仕方と環境や資源とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。

第3 題材の評価に関する事例

技術分野

ここでは、「A 技術とものづくり」のすべての生徒に履修させる内容の(1)～(4)について、生徒一人一人が課題を設定し、課題を解決するための製作品の製作を取り上げている。題材名を「身の回りを整頓するものを製作しよう」として、製作品は生徒の工夫・創造を十分に生かすことができるように、主材料を木材か金属とし、プラスチックなどのその他の材料も考慮するようにしている。

第2学年 4月～3月

題材名 「身の回りを整頓するものを製作しよう」 (35時間)

1 題材の目標

生活に必要な製作品の設計・製作をとおして、ものづくりやエネルギー利用の基礎的な知識と技術を身に付けさせ、生活と技術とのかかわりについて理解させるとともに、生活に技術を活用する能力と態度を育成する。

題材の指導計画

〔1〕	技術と私たちの生活	2時間
〔2〕	身の回りを整頓する製品	3時間
〔3〕	製作品の検討と構想のまとめ	6時間
〔4〕	加工法の検討	3時間
〔5〕	製作に使用する機器の仕組み	4時間
〔6〕	製作品の製作	15時間
〔7〕	これから求められる技術	2時間

2 題材の評価規準

【A「技術とものづくり」(1)(2)(3)(4)】

	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術につ いての知識・理解
内容の まとめ りごと の 評価 規準	生活や産業の中で用いられている技術に関心をもち、技術が果たしている役割や、環境・エネルギー・資源について考えようとしている。	技術を適切に使う方法を工夫している。		技術と環境・エネルギー・資源との関係に関する知識を身に付け、技術のあり方について理解している。
	身の回りの生活を向上させるための製作品を構想することに関心をもち、製作するために必要なことを図で表示しようとしている。	使用目的や使用条件に即した製作品を構想し、その設計について工夫し創造している。	目的とする製作品を設計することができる。	製作品の構想の表示方法に関する知識を身に付け、設計時に必要な材料の性質や機能及び構造について理解している。
	加工技術に関心をもち、目的や条件に応じて、工具や機器を適切に活用しようとしている。	材料の特徴と加工の目的に応じて、工具の仕組みを生かした使い方を工夫している。	製作の目的と製作品に用いる材料に適した加工を行うことができる。	加工技術に関する知識を身に付け、工具の仕組みについて理解している。
	製作に使用する機器の仕組みに関心をもち、保守と事故防止に努めようとしている。		機器の保守と事故防止ができる。	基本的な機器の構造と各部の働きに関する知識を身に付け、保守と事故防止の必要性について理解している。
題材	ものづくりに関する技術について関心をもち	ものづくりに関する技術を適切に活用し、	ものづくりに関する基礎的な技術を身に付	ものづくりに関する基礎的な知識を身に付

<p>の 評 価 規 準</p>	<p>ち、そのあり方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとしている。</p>	<p>生活の中の課題の解決のために工夫し創造している。</p>	<p>け、その技術を安全かつ適切に活用できる。</p>	<p>け、ものづくりの技術が生活や産業に果たしている役割を理解している。</p>
<p>学 習 活 動 に お け る 具 体 の 評 価 規 準</p>	<p>身近な機械や電気機器に利用されている物質・エネルギー・情報関係の技術についていずれかを調べようとしている。技術の発達と生活様式や職場環境の変化の関係について身近な生活をもとに調べようとしている。いくつかの本棚（例示題材）を例に、同じ用途の製品でありながら機能や構造が異なる理由を調べようとしている。木材及び金属で作られた本棚（例示題材）を例に、材料による特徴の違いを調べようとしている。自分の生活の中で必要なものを製作品として表示しようとしている。製作に使用する工具を選択し、適切な使用方法を調べようとしている。製作に使用する機器の構造と各部の名称を調べようとしている。木材（例示題材）の繊維の方向や厚さに応じて、歯や材料に対する角度を適切に選択し、のこぎりびきを行おうとしている。材料の種類や加工の目的に応じて、機器を安全に使用しようとしている。生活の中で利用されている技術が、エネルギーや資源の有効利用、及び環境の保全等に与えた影響についてまとめようとしている。</p>	<p>製作品の使用目的にあわせて、機能の選び方を工夫している。製作品の使用目的に応じた構造を工夫している。木材（例示題材）の特徴を生かした使い方（木材の繊維方向等）を工夫している。構想したものの形状が明確になるように図のかき方を工夫している。木材（例示題材）を切削する際に、切削する量や目的に応じて、工具の選び方を工夫している。身の回りの生活の中で資源を節約する方法を工夫している。</p>	<p>製作品の使用目的に合わせて、中心となる材料を選択することができる。製作品を等角図かキャビネット図でかくことができる。ボール盤（例示題材）のねじの締め付け・ベルトの傷の確認、給油等の保守点検を行うことができる。材料や加工箇所に適した工具や機器を利用し、部品加工、組立て及び仕上げを行うことができる。工具や機器を適切に使用するとともに、安全に運んだり、手渡したり、収納したりすることができる。作業に適した服装で、正しい位置に立ち、安全に機器を操作することができる。</p>	<p>加工技術や情報技術等の発達が生活様式や職場環境に与えた影響を説明できる。本棚（例示題材）に必要な機能を説明できる。本棚（例示題材）に利用されている丈夫にするための方法（補助金具等）と接合方法を説明できる。木材（例示題材）の長所と短所を説明できる。本棚（例示題材）を設計する手順と構想を表示する方法を説明できる。木材（例示題材）に対し、切断、穴あけ、切削、接合する方法を説明できる。切断する木材の繊維の方向に応じて、両刃のこぎり（例示題材）の歯の形状を説明できる。ボール盤（例示題材）の電気回路を構成する部品の働きを説明できる。ボール盤（例示題材）に用いられているベルトとベルト車の働きを説明できる。ボール盤（例示題材）の保守点検と事故防止の方法を説明できる。ボール盤（例示題材）に用いられている、漏電による機器の破損や感電事故を防止する仕組みを説明できる。本棚（例示題材）の加工工程と、それぞれの工程で利用する加工技術を説明できる。環境保全・省エネルギー・省資源のため</p>

				に発達した技術を説明できる。 生活の向上や環境保全のためには、どのように技術を活用し、また、発達させるべきかを説明できる。
--	--	--	--	--

3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	題材の評価規準との関連	評価方法等
1 2	技術の発達と私たちの生活や産業の変化の関係を理解する。 ・加工技術や エネルギー変換技術 、及び情報技術の発達が、生活様式や職場環境に与えた影響について調べる。	アの エの	・観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト
3 4 5	身の回りを整頓する製品の設計に必要なとなる、材料の性質や機能及び構造を理解する。 ・身の回りの製品に必要な機能と、使われている構造についてまとめる。 ・身の回りの製品に使用されている材料の特徴についてまとめる。	アの エの	・観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト
6 7 11	製作するものを検討し、設計することができる。 ・設計の手順を知り、材料、機能及び構造を検討する。 ・構想の表示方法を知り、構想図をかく。	アの イの ウの エの	・ワークシート ・アイデアスケッチ ・材料表(主材料 木材、金属) (その他の材料) ・実技テスト(等角図) ・構想図
12 13 14	加工の目的や条件と工具の仕組みとの関係を理解する。 ・製作に使用する工具や機器の使い方と仕組みについて、材料との関係からまとめる。	アの エの	・観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト
15 16 18	機器の構造と各部の働きを知るとともに、保守と事故防止の必要性を理解する。 ・ボール盤の電流の流れ方を調べ、回路図をかく。 ・ボール盤の動力の伝達の方法とその特徴をまとめる。 ・ボール盤の安全のための部品の働きと事故を防止する方法を調べる。 ・ボール盤の保守点検を行う。	アの ウの エの	・観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト ・実技テスト
19 20 33	材料に適した加工を行い、製作品を製作することができる。 ・部品加工 ・組立て ・仕上げ	アの イの ウの エの	・観察 ・ワークシート(例 - 1 参照) ・作業工程表 ・実技テスト ・作品 ・部品検査

34 35	技術が果たしている役割を考慮することができる。 ・環境保全，省エネルギー・省資源のために発達した技術について調べる。 ・これからの望ましい技術のあり方について考える。	アの イの エの	・ワークシート ・ペーパーテスト ・レポート
----------	---	----------------	------------------------------

参考資料

*例 - 1 ワークシート（生徒が活用するチェック表）

部品チェック表 第 _____ 学年 組 氏名 _____

製作品名 「 マルチ小物入れ 」
チェックポイント

	材 料	ラワン材	使用工具	両刃のこぎ	1月11日	1月18日
切	定規を当てて，隙間を確認	まったくなし				
		少し空いている				
		1 mm以上空いている。				
断	定盤の上に立てて，角度を測る	垂直				
		少し傾いている				
		立てることができない				
断	設計どおりの寸法かを確認	設計どおりの長さ				
		± 2 mm以内				
		± 3 mm以上				
接合	材 料	ラワン材 と アクリル版	接合方法	木ねじ	1月18日	月 日
		接合した箇所の隙間を確認	まったくなし			
折り曲げ	材 料	アクリル版			1月18日	月 日
		希望通りの大きさかどうかを確認	設計どおりの半径			
			± 2 mm以内			
		± 3 mm以上				

チェックした箇所を記録しておこう！

することが大切である。

(2) 生活を工夫し創造する能力

学習カードやレポート、製作物、自己評価などによって、自分がかかわれる生活を見つめ、課題を発見し、その解決を目指して工夫しているか、自分なりの方法を工夫したり創造したりしているかを確認する。その際、生徒がどのような考えに基づきその方法をとったのか、その生徒の思いについて十分確認する必要がある。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

製作品をより使いやすいものとするために、機能の選び方を工夫している。

製作品に必要な強度や使用する際の安全性などを考えた構造を工夫している。

各材料の特徴を生かした使い方を工夫している。

構想したものの形状と大きさが明確になるように、正確な図のかき方を工夫している。

材料や加工箇所に応じて、より適切な工具を選択するとともに、その適切な使い方を工夫している。

身の回りの生活の中で、環境を保全する方法とエネルギーや資源を関連付けて節約する方法を工夫している。

* 指導上の留意点

指導にあたっては、使用目的に応じて、製作品に必要な機能や強度などを考えさせ、工夫できる箇所を明確にするなどの配慮が必要となる。自分なりの工夫ができない場合については、製作品の見本などを参考にさせ、自分が製作するものと見本の使用目的や条件の違いに応じて、「機能」、「構造」、「材料の使い方」等を変更することを考えさせる。

(3) 生活の技能

評価の工夫

実技テストや作業場面の観察、部品や製作品の検査などから、適切な材料が選択されているか、正確に製作図が描かれているか、適切な機器の保守点検が行えているか、機器や工具の安全な取扱いができているか、正確な加工がされているかを確認する。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

製作品の使用目的にあわせて、各部品に適した材料を選択することができる。

線の使い分け等に配慮し、製作品を等角図かキャビネット図で正確にかくことができる。

ボール盤（例示題材）のねじの締め付け・ベルトの傷の確認、給油等の保守点検を確実に行うことができる。

材料や加工箇所に適した工具や機器を利用し、正確に部品加工、組立て、及び仕上げを行うことができる。

工具や機器を適切に使用するとともに、それぞれの用途や働きを考慮した安全な運搬、手渡し、収納などが確実にできる。

作業に適した服装で、正しい位置に立ち、事故防止の手順に従って確実に機器を操作することができる。

* 指導上の留意点

加工に関する技能については、副題材の製作などを通して確実に身に付けるよう指導するとともに、自分の技能に自信をもてない生徒に対し練習の機会を与えるなどの配慮が必要である。また、機器の操作や保守点検については、実技テスト等を行い、十分な技能が身に付かないまま作業させることのないようにしなければならない。

(4) 生活や技術についての知識・理解

評価の工夫

ワークシートやペーパーテスト、レポートなどから、材料や加工技術、設計に関する知識を身に付けているか、機器の保守と事故防止に関する知識を身に付けているか、技術と生活との関係が理解されているか、道具の仕組みと使用方法の関係が理解されているか、技術の役割と今後の技術の在り方について理解されているかを確認する。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

加工技術や情報技術等の発達と生活様式及び職場環境に与えた影響について、その技術がなかった場合と関連付けて説明できる。

身の回りの製品の使用目的とその製品が持つ機能の関係を説明できる。

身の回りの製品に利用されている丈夫にするための方法（幕板、ほぞ組み等）と接合方法を説明できる。

木材と比較して、金属やプラスチックの長所、短所を説明できる。

自らが構想した製作品を設計する手順と、その構想を表示する方法を説明できる。

木材、金属及びプラスチックに対して切断、穴あけ、切削、接合する方法を説明できる。

木材、金属及びプラスチックを切断する工具について、歯の形状と材料の性質との関係を説明できる。

ボール盤（例示題材）の電気回路を構成する部品の働きについて、電流の流れと関連付けて説明できる。

ボール盤（例示題材）では、直径の異なる原動車と従動車を用いることで回転数やトルクを変化させていることを説明できる。

ボール盤（例示題材）の保守点検と事故防止の方法を**作業手順に従って確実に説明**できる。
 ボール盤（例示題材）に用いられている，漏電による機器の破損や感電事故の**原因とそれを防止する仕組みを関連付けて説明**できる。

自らが構想した製作品の加工工程と，それぞれの工程で利用する加工技術を，**工程表をもとに説明**できる。

環境保全・省エネルギー・省資源のために発達した技術の例を挙げ，その技術がなかった場合の状況と**関連付けて説明**できる。

生活の向上や環境保全のために，どのように技術を活用し，また，発達させるかを考え，これからの時代にふさわしい技術のあり方について説明できる。

* 指導上の留意点

加工に関する知識については，必要な知識を整理できる学習カードを用意するなどの指導法を工夫するとともに，授業終了後や学習活動終了後に，学習内容が十分身に付いていないと判断した生徒については，次時の学習時間に復習できる機会を確保し，実際の作業に入る前に確実に身に付けられるよう配慮することが大切である。機器の操作や保守点検については，自分が使用する工具や機器に関するポイントをまとめたカードを作成させ常に確認しながら作業させるなどの工夫も必要である。

5 観点別評価の総括について

各題材で身に付ける資質や能力を明確にし，題材ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際，題材によって重視する観点や評価規準があれば，評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり，重み付けをしたりするとともに，観定の趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど多元的に評価することが必要である。

また，題材については，例えば，「の製作」などと1年間を通して1つの題材で授業が進められることも考えられるが，学期ごとの評価ができるような時間配当の題材（小題材）や題材を学期ごとに分けて評価計画を作成することなどが望まれる。

題材ごとの観点別評価は，次のような手順で行う。

題材の**学習活動**における具体の評価規準に基づいて，毎時の授業における観点別評価をA，B，C，又は点数などで評価する。

で行った評価のA，B，Cに点数を当てはめるなどして観点別に合計し，平均点を**小数第2位を四捨五入して**算出する。算出した平均点をあらかじめ定めておいた数値（以上をAとするなど）と比較して，A，B，Cを判定する。例えば，**例に示すように**，毎時の評価について，A = 3点，B = 2点，C = 1点で合計する。観点ごとの評価回数異なるので平均点を**小数第2位を四捨五入して**算出し，「2.6以上であればAとする」などと定めておきA～Cを決定する。

例 観点別評価表

(注) A = 3，B = 2，C = 1

氏名		時						合計	平均	評価	備考
		1	2	3	4	5	6				
関	工	A(B)C	A(B)C	(A)BC	A(B)C		26	2.6	A		
	技						8	1.3	C		
知	関	A(B)C		A B(C)	A(B)C	A(B)C	13	2.2	B		
	工						31	2.4	B		

(注) 2.6以上 A
 1.5～2.5 B
 1.4以下 C

6 技術・家庭科の観点別評価の総括

技術・家庭科においては，教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して，各項目に示される指導内容を，例えば，生徒の身近な生活と関連させるなど，指導単位にまとめて題材を設定して学習指導が行われている。また，各学年における技術分野と家庭分野の授業時数が異なっているとしても，3学年間を通して，いずれかの分野に偏ることなく授業時数が配当されていればよいとしている。

したがって，できるだけ客観的に観点別評価を行い，その結果を題材ごと，分野ごとに総括し，技術分野及び家庭分野をあわせて年間の総括とする必要がある。その際には，各分野ごとに観点別評価の総括をした後，授業時数に応じて重み付けを行うなどの方法が考えられる。

この外にも，観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり，各学校において工夫することが望まれる。

家庭分野

ここでは、内容の「B 家族と家庭生活」の指導に当たって、指導項目(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、(2)幼児の発達と家族、(3)家庭と家族関係の相互の関連を図り、観察や調査、ロールプレイングなどの学習活動を工夫した事例「見つめよう自分の成長と家族」(事例1)を紹介する。本題材は、選択項目B「(5)幼児の生活と幼児との触れ合い」を履修しない場合を想定しているため、幼稚園や保育所等で幼児を観察したり、一緒に遊んだりする学習活動を取り入れている。

題材名 「見つめよう自分の成長と家族」 (18時間) (第2学年 10月~12月)

1 題材の目標

幼児を観察したり、一緒に遊んだりする活動を通して、幼児に関心をもたせ、子どもが育つ環境としての家庭や家族の人間関係について考えることにより、家庭や家族の基本的な機能や重要性を理解できるようにする。

題材の指導計画

(総授業時数18時間)

- | | |
|------------------|-----|
| 〔1〕自分の成長と家族 | 1時間 |
| 〔2〕幼児の発達と遊び | 8時間 |
| 〔3〕幼児の発達と家族 | 3時間 |
| 〔4〕家族の生活と家族関係 | 4時間 |
| 〔5〕家庭生活と地域とのかかわり | 2時間 |

2 題材の評価規準

【B「家族と家庭生活」(1)(2), 小題材〔1〕~〔3〕】

小題材〔4〕,〔5〕は省略

	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術について の知識・理解
内容の まとめ りごと の 評価 規 準	(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて、関心をもって学習活動に取り組んでいる。			(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて気付いている。
	(2)幼児に関心をもち、幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて考えようとしている。	(2)幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	(2)幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて、観察したり調査したりすることができる。	(2)幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けている。
題材の	・事例などを通して、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて、関心をもって話し合っている。			・話し合いを通して、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて気付いている。
	・幼児に関心をもち、幼児の観察や遊び(遊び道具の製作)の計画に取り組み、幼児の遊びと発達とのかかわりについて考えようとしている。	・幼児の遊び(遊び道具の製作)や遊び方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。	・幼児の遊びや遊び道具、遊びと発達とのかかわりについて、観察したことをまとめたり発表したりすることができる。	・幼児の心身の発達の概要と遊びの意義について理解している。

評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロールプレイングや親子の観察に関心をもって取り組み，幼児の発達を支える家族の役割について考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達と家族とのかかわりについて課題を見付け，その解決を目指して工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の重要性と幼児の発達を支える家族の役割について理解している。 	
学習活動における具体的な評価規準	事例などを通して，自分の成長や生活を振り返り，家族や家庭生活とのかかわりについて話し合い，気付いたことをまとめようとしている。			話し合いを通して，自分の成長や生活は家族やそれにかわる人々に支えられてきたことに気付いている。
	ビデオ視聴から幼児の心身の発達と遊びについて気付いたことをまとめようとしている。			幼児の身体の発育や運動機能，言語，情緒，社会性の発達の概要について説明できる。
	幼児の遊び（遊び道具）や遊び方に関心を持ち，グループで協力して計画立案に取り組み，計画表をまとめようとしている。	幼児の心身の発達に応じた遊び（遊び道具）や遊び方の計画について考え，工夫している。		
	幼児に関心をもって幼児の観察に取り組んでいる。	幼児の心身の発達に応じた遊び（遊び道具）や遊び方について考え，工夫している。	幼児の遊びや遊び道具，遊びと発達とのかかわりについて観察することができる。	
	幼児の観察から気付いたことをあげ，幼児の遊びや遊び道具，遊びと発達とのかかわりについて考えようとしている。		幼児の遊びや遊び道具，遊びと発達とのかかわりについて観察したことをまとめたり発表したりすることができる。	幼児にとっての遊びの意義について説明できる。
	基本的な生活習慣形成の場面を想定したロールプレイングに関心をもって取り組み，発達と家族とのかかわりについて気付いたことをまとめようとしている。	ロールプレイングを通して，幼児に基本的な生活習慣を身に付けさせる方法や家族の接し方について考え，工夫している。		基本的な生活習慣形成の重要性と幼児に対する家族の接し方について説明できる。
	親子の観察（ビデオ視聴）から幼児の発達を支える家族の役割について気付いたことをまとめようとしている。			幼児の発達を支える家族の基本的な役割について説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの保護 ・ 情緒の安定 ・ 社会化

3 指導と評価の計画 【 小題材〔1〕～〔3〕 】

小題材〔4〕,〔5〕は省略

時間	ねらい・学習活動	学習活動における具体的評価規準	評価方法等 〔例1〕
1	自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えることができる。 ・テレビドラマの事例についてグループで話し合う。 ・自分の成長過程を振り返る。	アの エの	・観察（取り組み状況・発表） ・学習カードの記入状況 ・自己評価（感想）
2	幼児の心身の発達と遊びの特徴について理解することができる。 ・ビデオを視聴し、幼児の心身の発達と遊びの特徴をまとめる。	アの エの	・学習カードの記入状況 ・自己評価 ・ペーパーテスト（*）
3	幼児の遊び（遊び道具の製作）の計画を立てることができる。 ・前時の学習をもとにグループで遊び（遊び道具の製作）の計画を立て、発表し合う。	アの イの	・観察（取り組み状況・発表） ・計画表 ・（作品） ・自己評価，相互評価 〔例2，例3〕
5	幼稚園（保育所）を訪問し、幼児を観察したり、遊んだりすることができる。 ・遊びの計画をもとに幼児と遊んだり、観察したりする。	アの イの ウの	・観察（取り組み状況） ・幼児の観察記録表 ・自己評価（感想）〔例4〕
7	幼児の観察についてまとめ、幼児にとっての遊びの意義について考えることができる。 ・幼児の観察から幼児の遊びや発達と遊びの特徴についてまとめ、グループごとに発表し合う。	アの ウの エの	・観察（取り組み状況・発表） ・幼児の観察記録表 ・学習カードの記入状況 ・自己評価，相互評価 ・ペーパーテスト（*）
8	・幼児の遊びの意義について話し合い、発表し合う。		
9			
10	基本的な生活習慣の形成の重要性について理解することができる。 ・ロールプレイングにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる方法や家族の接し方について考え、グループごとに発表し合う。	アの イの エの	・観察（取り組み状況・発表） ・学習カードの記入状況 ・自己評価，相互評価〔例5〕 ・ペーパーテスト（*）
11	・発表をもとに幼児の発達と家族とのかかわりについて考える。		
12	子どもが育つ環境としての家族の役割について考えることができる。 ・親子の観察（ビデオ視聴）から、幼児の発達を支える家族の役割についてグループで話し合う。	アの エの	・観察（取り組み状況・発表） ・学習カードの記入状況 ・自己評価 ・ペーパーテスト（*）

（注）ペーパーテストについては、その授業時間中に実施するのではなく、ある程度の内容のまとまりについて実施するなどが考えられる。

【参考資料】

〔例1〕教師の評価補助簿

ペーパーテスト以外の評価方法について、よい点や気付いた点などを記録する補助簿である。教師による観察だけでなく自己評価などを合わせて記録することにより、一人一人の生徒の状況を把握して自己評価の低い生徒への指導や指導方法の工夫改善に生かすことを意図している。

月日 観点 評価方法 生徒氏名	1 /		2 /		3 4 /		5 6 /											
	関 知		関 知		関		工											
	話 発 し 言 合 い	自 己 評 価	学 習 カ ー ド	自 己 評 価	学 習 カ ー ド	話 発 し 言 合 い ・ 協 力	自 己 評 価	計 画 表	作 品	自 己 評 価	相 互 評 価	幼 児 の 観 察	自 己 評 価	観 察 記 録 表	自 己 評 価	観 察 記 録 表	自 己 評 価	
1																		
2																		
3																		

〔例2〕生徒の相互評価表

他の班の発表をよく聞いてみよう。				
		組 番 氏名		
班名	内 容 の 概 略	心身の発達に応じた工夫があるか	安全性はどうか	改善した方がよいこと、気付いたこと
班				
班				

〔例3〕生徒の自己評価表（学習カードの一部）

「幼児の遊び（遊び道具の製作）の計画」を振り返ってみよう。

< 自己評価 >

グループで協力して計画を立てることができましたか。

A B C D
|-----|

対象児の心身の発達に応じた遊び（遊び道具の製作）の計画を工夫することができましたか。

A B C D
|-----|

適切な材料を選び、有効に活用して安全に遊び道具を製作することができましたか。

A B C D
|-----|

計画した遊び（製作した遊び道具）を通して、どのように幼児とかかわりたいですか。

幼児の遊び（製作した遊び道具）の計画についての感想

〔例4〕 幼児の観察記録表 ， 生徒の自己評価表

幼児の観察記録													
観察日()月()日 ()組()番 氏名() 幼児の遊んでいる様子を観察し、気付いたことをまとめてみよう。													
対象児の年齢	歳	性別		観察場所									
<p>計画した遊び（製作した遊び道具）に対する対象児の反応</p> <p>計画した遊び（製作した遊び道具）のよかったと思うところ，改善した方がよいと思うところ</p> <p>対象児とどのように遊んだか。どんな会話をしたか。</p> <p>ことばや感情表現，動作や運動機能の発達で気づいたこと</p> <p>全体の感想</p>													
<p>【訪問前】あなたの幼稚園訪問への意欲は？</p> <p>A ----- 早く行ってみたい</p> <p>B ----- 行ってみたい</p> <p>C ----- あまり行きたくない</p> <p>D ----- 行きたくない</p> <p><自己評価></p>			<p>【訪問後】あなたの幼稚園訪問への意欲は？</p> <p>A ----- また行ってみたい</p> <p>B ----- 機会があれば行ってみたい</p> <p>C ----- あまり行きたくない</p> <p>D ----- もう行きたくない</p>										
<p>幼児を観察したり，幼児と遊んだりすることができましたか。</p>			<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25%;">A</td><td style="width: 25%;">B</td><td style="width: 25%;">C</td><td style="width: 25%;">D</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td><td>_____</td><td>_____</td></tr> </table>			A	B	C	D	_____	_____	_____	_____
A	B	C	D										
_____	_____	_____	_____										
<p>対象児との遊びを工夫することができましたか。</p>			<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25%;">A</td><td style="width: 25%;">B</td><td style="width: 25%;">C</td><td style="width: 25%;">D</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td><td>_____</td><td>_____</td></tr> </table>			A	B	C	D	_____	_____	_____	_____
A	B	C	D										
_____	_____	_____	_____										
<p>幼児についての理解や関心を深めることができましたかと思いませんか。</p>			<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 25%;">A</td><td style="width: 25%;">B</td><td style="width: 25%;">C</td><td style="width: 25%;">D</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td><td>_____</td><td>_____</td></tr> </table>			A	B	C	D	_____	_____	_____	_____
A	B	C	D										
_____	_____	_____	_____										
<p>今後，幼児を観察したり，遊んだりした経験をどのように生かしたいですか。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>													

〔例5〕 学習カード，生徒の相互評価表

<p>1 基本的な生活習慣を身に付けさせるにはどのようにしたらよいか，せりふを考えてみよう。</p> <p>選んだ場面() 家族の役割分担()</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>				
<p>2 各班のロールプレイングを見て気づいたことを記録しよう。</p>				
班名	内 容	よいなあと思ったこと	疑問に思ったこと	家族について感じたこと
	食 事			
	清 潔			
<p>3 基本的な生活習慣を身に付けさせるための家族の役割について考えたことをまとめてみよう。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>				

4 観点別評価の進め方

(1) 生活や技術への関心・意欲・態度

評価の工夫

ここでは、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりについて関心をもっているか、進んで学習活動に取り組んだり、意欲的、積極的に課題解決をしようとしているか、知識と技術を進んで活用しようとしているかなどについて評価する。

具体的には、グループでの話し合いや幼児の遊びの計画、幼児の観察、ロールプレイングなどの学習の取り組み状況を教師による観察や生徒の学習カード、計画表、幼児の観察記録表、自己評価の記入状況、感想文などにより多面的に評価することとした。その際、生徒一人一人の生活環境、生活経験に留意するとともに、進んで計画し実践しようとする意欲や態度についても着目し、一人一人の学習状況や変容の姿などを把握できるよう心がけた。本題材では、幼児への関心や幼児の発達にかかわる家族への関心についてその変容を把握できるよう、なるべく回数多く評価するよう工夫した。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

- アの ・事例をもとに自分の成長や生活を振り返って気付いたことをまとめる際、現象のみでなく、家族やそれにかかわる人々の気持ちまで考えている。
- アの ・グループでの話し合いに積極的に参加して意見を述べている。
- アの ・目的を明確にして対象児の遊び（遊び道具の製作）の計画立案に取り組んでいる。
- アの ・グループでの話し合いに積極的に参加して意見を述べたり、友達の意見などを生かしてよりよい計画を立てようとしている。
- アの ・観察の対象となる幼児から目を離さず、幼児とかかわりながら意欲的に観察に取り組んでいる。
- アの ・課題意識をもってロールプレイングに取り組んだり、他のグループの演技を熱心に見つめ、気付いたことを整理したりしている。
- アの ・自分の意見をまとめて積極的に発表しようとしている。

指導上の留意点

教科の特質から、「努力を要する」と評価した後で補充指導をするのではなく、一人一人の生徒に応じた助言や具体例の提示などを行うことが重要である。そのため、ここでは、指導と評価の一体化を図るための工夫、「努力を要する」ととらえられる生徒への手だて、生徒の状況から「努力を要する」と判断される恐れのある生徒に対する手だてなどを記している。なお、この考え方は、他の3つの観点についても同様とした。

- ・導入の自分の成長と家族とのかかわりについては、生徒の生活環境に配慮しながら振り返ることができるようにするとともに、幼児への関心や幼児に対する親しみの気持ちが高まるよう指導の仕方を工夫する。（ 〇 ）
- ・事前に幼児への関心の有無、中学生になってから遊んだり世話をしたりした経験、幼稚園や保育所等の訪問への意欲や対象児の希望などを把握し、幼児への関心の低い生徒への指導に生かすようにする。例えば、幼児の観察や遊びの計画の際、興味・関心の高い生徒とペアになったり、友達と幼児がかかわる様子を観察したりするなどの工夫が考えられる。（ 〇 ， 〇 ）
- ・導入の話し合いで思いつきで発言したり、事例を自分と関係づけて受け止められず、発表もほとんどない生徒に対しては、個別に話しを聞いたり、生徒自身の幼児期の思い出を振り返らせたりして、幼児の学習へとつなげるようにする。（ 〇 ）
- ・幼児への関心が低く、遊びの計画についてグループの話し合いに参加できない生徒に対しては、グループで考案した遊び方や作製した簡単な遊び道具で友達と遊ぶことを通して、対象児との遊びの計画に興味・関心がもてるようにするとともに、グループの遊びの計画を確認して幼稚園や保育所等への訪問の意欲が高まるようにする。（ 〇 ）

(2) 生活を工夫し創造する能力

評価の工夫

ここでは、幼児の遊びや遊び道具、遊び方、幼児の発達と家族とのかかわりについて、課題をどのようにとらえているか、課題解決を目指して自分なりに工夫をしたり、自分の考えを生かした取り組みをしているか、学習した知識と技術を実際の生活の場に生かして問題解決をしているかなどについて評価する。

具体的には、計画表や学習カード、ロールプレイングなどの表現活動、自己評価、相互評価などにより、遊び（遊び道具の製作）の計画の立て方や既習事項の応用の仕方、創意工夫の状況を評価することとした。その際、幼児の観察や遊びの計画、ロールプレイングの中で、幼児の心身の発達に関する知識を活用する工夫をしたか、また、一人一人の個性を生かして創意工夫ができたかなどを見るよ

う心がけた。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

- イの ・ 幼稚園や保育所で幼児を観察したり遊んだりする中で、さらに対象児に応じた遊び方を複数工夫したり、新たな遊びを考えたりしている。
- イの ・ 幼児に基本的な生活習慣を身に付けさせる方法や家族の接し方を自分なりに考え、複数工夫している。
 - ・ 自分の役割分担だけでなく、他の役割分担についても幼児の心身の発達に関する知識を生かして工夫点を考えている。

指導上の留意点

- ・ 幼児期の遊びやおもちゃを調べたり、簡単な遊び道具の実物標本を準備したりして、遊びの計画に役立てるようにする。()
- ・ できるだけ対象児の姿を想定して計画を立てるようにし、相互評価を生かして計画を見直したり、考えた遊び(遊び道具)の安全性について相互評価により確認し合うようにする。()
- ・ グループで遊びの計画を立てる際、生徒が自分なりの考えを学習カードなどにまとめてから話し合うようにし、個々の考えや工夫を認め褒めるようにする。
- ・ 具体的な解決策の考えが決まらず、なかなかロールプレイングとしてまとまらない生徒に対してはグループの話し合いへの参加を促し、家族それぞれがどのように幼児に接するかを確認するとともに、幼児期を思い起こしたり、他のグループの発表内容など具体的な例を示したりして、幼児への接し方を考え、工夫できるように支援する。()

(3) 生活の技能

評価の工夫

ここでは、幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する観察・調査、製作活動に必要な基礎的な技術を身に付けているかについて評価する。

具体的には、教師によるチェックリストを用いた評価や生徒によるチェックカードを用いた自己評価、相互評価、観察・調査の記録表などにより、基礎的な技能の定着度などを評価することとした。本題材では、幼児の観察やそのまとめ方を中心に評価した。その際、身に付いた技能について評価するだけでなく、その目的が的確にとらえられたか、そのための方法や準備ができたかなどの評価をするよう心がけた。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

- ウの ・ 対象児の遊びや遊び道具、遊びと発達とのかかわりについて視点をもって熱心に観察することができる。
 - ・ 観察したすべての視点について観察記録表を適切にまとめている。
- ウの ・ 観察したことを現象のみでなく、資料などを適切に活用し、心身の発達と関連させてまとめている。
 - ・ 観察したことを自分のことばでまとめ、話し合ったり、発表方法を工夫して発表したりして学習の成果を表現している。

指導上の留意点

- ・ 幼児の観察の際、何をしてよいか分からない生徒に対しては、一緒に観察し、観察の視点や記録表の記入の仕方を助言する。()
- ・ 幼児の観察についてまとめる際、各自の観察から気付いたことを十分出し合い、対象児の遊びや遊び道具、遊びと発達とのかかわりについてまとめるようにする。()
- ・ 幼児の観察がほとんどできなかつたり、観察記録表をまとめることができなかつた生徒に対しては、観察で気付いたことや考えたことを個別に聞いて観察記録表の記入の仕方、資料を活用したまとめ方を助言したり、個別指導したりする。また、友達の観察のまとめをしっかりと聞き、同じように感じたことや気付いたことについてまとめ、話し合いへの参加を促すようにする。(,)

(4) 生活や技術についての知識・理解

評価の工夫

ここでは、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、幼児の遊びや幼児の発達と家族とのかかわりに関する基礎的な知識を身に付けているかについて評価する。

具体的には、学習カードや自己評価(感想文)、ペーパーテストなどにより、事例や遊びの計画、幼児の観察、ロールプレイングなどを通して、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわり、幼児の遊びの意義や心身の発達の概要、幼児の発達を支える家族の役割や基本的な生活習慣の形成の重要性に関する知識が理解されたかどうかを評価することとした。その際、自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについては、1時間目だけで評価するのではなく、題材全体を通して気付くことができたかを感想文などから評価するよう心がけた。また、幼児への関心や創造的な思考、態度等とのバランス

を考え、知識重視にならないようにすることにも留意した。

「十分満足できる」状況と判断する際の生徒の具体的な状況の例

- 工の
 - ・身体の発育や運動機能、言語、情緒、社会性の発達の概要について具体的に例をあげたり、正確に説明することができる。
 - ・情緒や社会性の発達には親やそれに代わる人が愛情をもって接し、幼児との基本的な信頼関係を形成することが大切であることに気付いている。
- 工の
 - ・幼児にとっての遊びの意義について正確に説明することができる。
 - ・友達との遊びや十分な遊びを経験できる環境が大切であることに気付いている。
- 工の
 - ・基本的な生活習慣形成にあたっての家族の接し方について、具体的に例をあげて説明することができる。
 - ・適切な時期と方法を考えて身に付けさせる必要があることに気付いている。

指導上の留意点

- ・授業の終末に学習カードの記入状況や自己評価などから、理解できたかを把握するようにし、理解が十分でない場合は、もう一度説明したり、教科書や資料で確認したりする。()
- ・VTRに関心を示さず、幼児の心身の発達についてまとめることができなかった生徒に対しては、次時の始めに対象となる幼児の心身の発達について概要を確認し、遊びの計画に生かすようにする。()

5 観点別評価の総括

各題材で身に付ける資質や能力を明確にし、題材ごとの評価計画を作成して具体的な評価規準を設定する。その際、題材によって重視する観点や評価規準があれば、評価計画作成の段階から評価回数を多くしたり、重み付けをしたりするとともに、観点的趣旨にふさわしい評価方法を適切に選択し組み合わせるなど多元的に評価することが必要である。

また、題材については、例えば、「 の製作」などと1年間を通して1つの題材で授業が進められることも考えられるが、学期ごとの評価ができるような時間配当の題材(小題材)や題材を学期ごとに分けて評価計画を作成することなどが望まれる。

題材ごとの観点別評価の総括は、次のような手順で行う。ここでは、毎時の観点別評価の結果に重み付けを行わない場合について示す。

題材の学習活動における具体的評価規準に基づいて、毎時の授業における観点別評価をA、B、Cで評価する。

で行った評価にA = 3点、B = 2点、C = 1点を当てはめて観点別に合計する。

観点ごとの評価回数が異なるので、各観点別に平均点を算定して小数第2位で4捨5入し、2.6点以上をA、1.5 ~ 2.5点をB、1.4点以下をCとして、各観点的評価を総括する。

(表) 題材ごとの観点別評価の総括例

氏名	時	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12												計	平均	総括
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
	関	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	16	2.3	B
	工			A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	7	2.3	B
	技					A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	4	2.0	B
	知	A B C	A B C							A B C	A B C	A B C	A B C	13	2.6	A

6 技術・家庭科の観点別評価の総括

技術・家庭科においては、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を、例えば、生徒の身近な生活と関連させるなど、指導単位にまとめて題材を設定して学習指導が行われている。また、各学年における技術分野と家庭分野の授業時数が異なっても、3学年間を通して、いずれかの分野に偏ることなく授業時数が配当されていればよいとしている。

したがって、できるだけ客観的に観点別評価を行い、その結果を題材ごと、分野ごとに総括し、技術分野及び家庭分野をあわせて年間の総括とする必要がある。その際には、各分野ごとに観点別評価の総括をした後、授業時数に応じて重み付けを行うなどの方法が考えられる。

この外にも、観点別評価の総括については様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれる。